

舞鶴公園フラワーボランティア



多くの人が花に関する技術や知識を持てば、
福岡市はきっと花に溢れたまちになるはずです。

ー「舞鶴公園フラワーボランティア」の活動内容を教えてください。

舞鶴公園の三の丸広場にある花壇を中心に、三の丸スクエアの周辺でも花壇づくりをしています。発足して12年くらいになるかな。育苗から取り組んでいて、福岡市を代表する舞鶴公園がいつも花で彩られるように、会員のみなどががんばっています。

花壇づくりを継続するためには、花が好きで、人と会うのが好きという気持ちに加えて、花壇づくりについての技術や知識が必要です。でも花が好きな人は、技術の向上にも興味がある人が多いと思うので、活動の中でそういった技術を持つ人を育てていけるように取り組んでいます。

また、新しく活動に参加してくれる人には、先輩の人とペアを組んで一緒に活動をしてもらっています。そうすれば、初参加の人にも心強いし、楽しいから、次回も参加してくれます。

こういった育成制度のような、技術や知識を伝達する仕組みがあるからか、みんな辞めずに続けてくれていますね。2年間しっかり活動した人には、推薦して「緑のコーディネーター養成講座」を受けてもらっています。この団体の強みは、会員みんなが技術も知識もしっかり持っていて、「緑のコーディネーター」の認定を受けているところです。多くの人は別の場所でも活動拠点を持っていて、精力的に花壇づくりに取り組んでいますよ。



ー花壇づくりには知識や技術が重要ですか？

花を育てるには「知識と技術」が必要です。種をまいて水をあげるだけではなかなか咲きません。秋から春にかけては育ちやすいけど、夏の暑い時期は育ちにくいので、それに耐えられる土づくりも必要です。どのような花壇にしたいか、どう植えていくかも考えないといけません。

でも、インターネットでは福岡市の気候や土壌に適した花の育て方の情報が得られません。花についての技術や知識を学びたい人は多いのに、そういう場が少ないのが実情だと思います。多くの人が花に関する技術や知識を持てば、福岡市はきっと花に溢れたまちになるはずです。



ー技術や知識の習得を促すためにはどのような施策・事業が必要ですか？

福岡市には「緑のコーディネーター育成講座」がありますが、いまの講座はリーダー育成が主な内容になっているので、それに加えて知識や技術を学べるカリキュラムがあるととても良い講座になると思います。花壇づくりだけではなく、フラワーアレンジメントやハンギングバスケットなど花に関わるいろんな人が受講するので、各分野に分けた技術講習を実施するのはどうでしょうか。

技術アップのためにはボランティア団体同士の交流も大切だと思います。福岡市ではいま300以上の団体が花壇づくりをしていると思いますが、横の交流があまりありません。各団体が抱える課題を出しあって、それについてディスカッションする機会があるといいですね。うちの団体は自分たちで育てた苗をたくさん持っているんで、他の団体と共有して花をもっと広げていきたいです。団体同士のつなぎ役が必要ですね。例えば、団体同士が話し合う場を設けて、さらに花のプロを招いて土づくりや花づくりの技術的な講習も合わせて実施してはどうでしょうか。そのような場所が各区に1つあると素晴らしいですね。

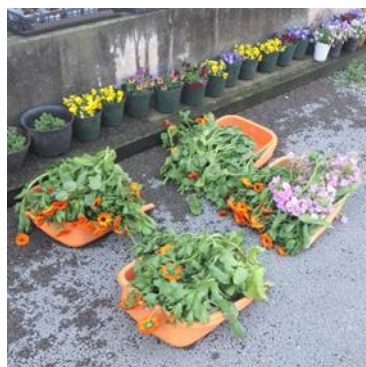


ーボランティア団体の実情を教えてください。

資金面で厳しいのが実情です。「花づくり活動支援事業」の助成金もありますが、1～5年目までは花壇面積に対して2,000円/㎡いただけるけど(上限 20 万円)、6年目以降は半分になります。舞鶴公園の花壇面積では年3回植え替えようとするとても足りないの、自分たちで育てた苗を活用しながら、なんとか綺麗な状態を維持しています。一部の街路花壇には福岡市が散水栓を設置してくれていますが、水道料金をボランティア団体が負担しなければならず、6年目以降に助成金が半分になると「もうできません」となっている団体も多いと聞いています。



あとは高齢化です。うちの団体も50～60代が少なく、70～80代が中心です。花づくりは体も使うし、体力的にきついところも多いですね。現役の人は仕事や子育てで余裕のない人も多いと思うので、水やりや草むしりなどの普段の活動は私たちが中心になってするの、がいいと思っていますが、土づくりなど体力のいる作業をするときは学生や企業に勤める若い人が手伝ってくれるとうれしいです。



企業も社会貢献を進めていると思うので、こういうところでうまく連携できたらいいと思います。「おもてなし花壇」に協賛している企業の中には、ボランティア参加に興味をもっている企業も多いのではないのでしょうか。企業の社会貢献活動は単独でがんばるより、既存の団体とうまく連携した方がいいように思います。

ー一人一花運動も6年目になりました。運動をもっと広げていくためには何が必要でしょうか。

企業の「おもてなし花壇」は都心部に集中している印象を受けるので、もう少しエリアが広がればもっと素敵なまちになるように思います。大濠公園の前に新しいホテルができる予定なので、明治通りや昭和通りがもっとお花で彩られれば、旅行者の方も喜ばれるのではないのでしょうか。ただ「おもてなし花壇」はどれも似たような花が植えられているので、いろいろなお花で花壇がつくられれば、もっと素敵なまちになると思います。

一人一花運動をもっと広めるためには、小学校や中学校など学校への働きかけも重要だと思います。小学校1、2年生には生活科という花や野菜を育てるカリキュラムがありますが、そういう授業に「緑のコーディネーター」を派遣するのはどうでしょうか。先生たちも普段の授業で大変だと思うので、こういうときこそ「緑のコーディネーター」に頼ってみたいです。授業で扱えば、子どもたちに花好きの気持ちや自然保護の精神も身につけてもらうことができると思います。自分で植えた苗で花が咲くと、子どもたちも達成感があるし、実際に喜んでいます。

区庁舎や体育館などの公共施設もまちの顔となる施設なので、花で彩られるといいですね。そのときに市の職員の方や指定管理のスタッフの皆さんが率先して取り組み、いろいろな人に影響して、運動の輪が広がるのではないのでしょうか。



—多くの人を巻き込むことが重要ですね。



花が好きな人は、今年はどういう花が面白いのかを探しに植物園に行っています。植物園が今年のテーマとなるような花を先取りして打ち出したりしたら、植物園の拠点化がより一層進むのではないのでしょうか。やはり、一人一花運動の拠点となる場所は、技術や知識が集積されていて、そこから伝達されていく場所であるとうれしいです。みんなが勉強させてもらう場所であってほしいですね。

例えば、シーズン前に各団体をボタニカルライフスクエアに集めて「福岡市は今年こういう花を植えていきます」と打ち出すのもおもしろいと思います。そのときにプロの講師からその花の手入れの仕方を教えてもらえたら、地域にもどんどん波及していくのではないのでしょうか。苗も一緒に配ってもらえたら、みんな喜ぶですよ。

世界水泳のときのように、今年のテーマカラーを決めてもいいかもしれませんね。みんなで一緒にやっている感じが出てきます。「みんなで取り組む今年の花」、素敵じゃないですか？

(お話を伺ったお相手)

舞鶴公園フラワーボランティア

会長 前田 郁子さん

伊東 由美さん

南嶋 恵美さん

